

# 愛媛県におけるカミツキガメ対応状況

愛媛県立衛生環境研究所 生物多様性センター 主任研究員 村上裕

## ■はじめに

生物多様性センター(以下センター)は、2011年に策定された「生物多様性えひめ戦略」(2017年2月改訂)に基づき、2012年に設置された県組織である。愛媛県では愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づき、88種の外来種を侵略的外来種として公表しており、放逐や植栽を禁止している。また上記戦略では、外来生物対策の推進が行動計画に掲げられ、センターは外来種に係る情報収集と対応を業務の一環として実施している。

2018年度の主な外来種対応状況は、哺乳類・鳥類12件、爬虫・両棲類11件、昆虫・クモ類27件、植物2件の情報提供があり、対応を行った(2019年1月現在)。外来カメ類に関しては、写真による判別と対応が中心であったが、特定外来生物のカミツキガメに関して下記のとおり継続的な捕獲調査を実施した。

## ■愛媛県におけるカミツキガメの野外確認状況

愛媛県では2000年から2016年にかけて、10件10頭のカミツキガメが散発的に目撃、捕獲されているが、全て1頭/件であり、飼育個体の逸脱または遺棄が主な要因であると考えられた。特に外来生物法の施行前後に確認件数が増加しており、外来生物法に基づく飼育許可申請を行わなかった飼育者等が野外に遺棄した可能性が高い(図1)。上記のとおり、愛媛県ではカミツキガメは遺棄単独個体が稀に野外確認される程度の種であったが、2017年、過去に確認された地点と同一地点で複数個体が目撃、捕獲されたことを受けて、2018年度にセンターと市、とべ動物園が合同で捕獲調査を実施することとなった。

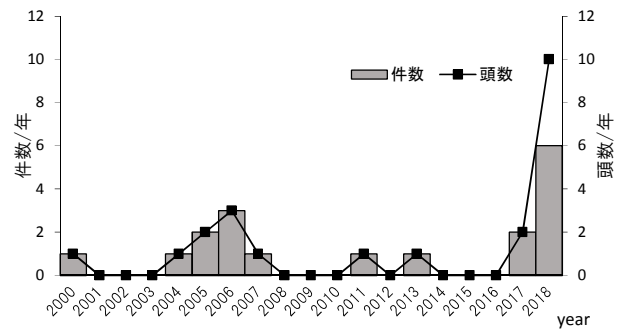


図1. 愛媛県におけるカミツキガメの野外確認状況。新聞報道、関係機関聞き取りに基づく。2018年は本調査による捕獲結果を含む。

## ■調査方法

- (1) 調査方法 : カメ用トラップによる捕獲および周辺踏査による産卵可能域の把握
- (2) 誘引餌 : 魚類の内臓等(地元提供)
- (3) トラップ資材 : 肺呼吸を行うカメが窒息死しないように改良されたカゴわな(愛媛県内水面漁業調整規則に基づく特別採捕許可申請済)
- (4) トラップ設置と調査内容
  - ① 現地を4か所の水域(A,B,C,D)に区分
  - ② 調査水域ごとに4基のトラップを設置(計16基)
  - ③ トラップを設置翌日の午前中に回収
  - ④ クサガメ等が捕獲された場合は背甲長、雌雄を記録し放逐
  - ⑤ カミツキガメが捕獲された場合は、外来生物法に基づき対応

## ■調査結果

捕獲調査は、6月28日から9月26日までに6回実施した。8月は本種の活性が高まることが想定されたことから、概ね1週間間隔で3回実施した。今回の捕獲調査における捕獲数は7頭で、うち3頭は幼体であった。幼体は、7月27日に背甲長約10cmの幼体1頭を初確認し、8月14日に幼体のみが2頭捕獲された。8月21日以降に実施した3回の調査では本種は捕獲されなかった(表1)。

当該地域では2006年の初確認から2018年9月までに15頭が捕獲された。

表1. カミツキガメ捕獲結果。(2018年)

捕獲日	方法	わな設置数	頭数	背甲長
3月27日	目視/タモ網	-	1	23cm
5月18日	その他	-	1	21cm
5月21日	目視/タモ網	-	1	28cm
6月28日	カゴわな	16	2	24cm 21cm
7月27日	カゴわな	16	3	24cm 22cm 10.5cm
8月14日	カゴわな	16	2	8.5cm 10.5cm
8月21日	カゴわな	16	0	
8月30日	カゴわな	4	0	
9月26日	カゴわな	16	0	

## ■考察と今後の対応

今回カミツキガメが捕獲された場所は、交通アクセスが良いとは言えず、不特定多数および複数回の放逐行為があった可能性は低い。よって2006年前後に複数個体が違法に同時放逐された可能性が高く、2017~2018年に捕獲された成体は2006年前後に放逐された幼体が成長したものが含まれている可能性が高い。また、今回捕獲された幼体は背甲長が10cm前後と8cm前後の個体があり、繁殖に2クラッチが成功した可能性がある。

当該地域は外部から隔離され、比較的狭い水域における繁殖初期段階と想定している。数年間は2018年と同程度の捕獲作業を継続することで産卵抑制を図り、限りなく根絶に近い状態とすることが可能であると考えられる。